

黒人初のメジャー・リーガーの社会進出に関する研究

A study on advance into society of the first major leaguer in black

1K07B158-1 野崎将司

指導教員 主査 磯繁雄先生 副査 田内健二先生

【緒言】

私は早稲田大学野球部に所属しており、今春アメリカ・ロサンゼルスでキャンプを行った。その時に感じたのはアメリカの大学野球における黒人選手の少なさだった。私たちのチームはアメリカの大学とオープン戦を行ったのだが、その時黒人選手の比率が異常に少ないということを目の当たりにした。その時私はなぜ黒人がいないのだろうかと終始疑問に思った。

また、ロサンゼルスキャンプに行く前、メジャー・リーガー全員が背番号“42”を着けて試合に出ている映像が目飛び込んできた。それはメジャー・リーグで“ジャッキー・ロビンソン”と名付けられ、その日はメジャー・リーガー全員が背番号“42”をつけて黒人初のメジャー・リーガーの彼の功績を称える記念日だった。それをきっかけに私は黒人問題とスポーツに興味を持つようになった。

その問題を詳しく研究する目的として、アメリカと黒人の歴史をメジャー・リーグと黒人野球の歴史とを関連させながら、黒人初のメジャー・リーガーのジャッキー・ロビンソンがアメリカ社会でどのような貢献を果たしたのかを分析するようにした。そしてこれらの研究の結果を踏まえて今後私たちがどのように将来につなげていくべきかという点についてのこの研究の考察を行った。

【方法、目的】

本研究は黒人差別の歴史的背景を取り上げ、スポーツ界(野球)でも当たり前のように行われてきた人種差別を調べ、そして黒人がどのようにして差別を乗り越え、人種問題を解決したのかを研究することによって、それを今後どのように活かせるかという目的で研究を行った。

本研究は、黒人差別とアメリカ野球の時代背景の関係から“黒人初のメジャー・リーガー、ジャッキー・ロビンソン”の社会進出を例に挙げて、その関連を考察するものである。したがって、上記のことが掲載されている文献をテキストとして、時代背景に注目しつつその時代の問題を分析する。

また、本研究では「黒人差別」と野球を対象とした文化社会学的研究を先行研究としてとりあげている。黒人初のメジャー・リーガー等の考察する際の視点及び、枠組みについては、そうした先行研究に依拠したうえで論を進めることとする。

【第1章】

アメリカにおける黒人差別の始まりはアメリカ植民地時代の奴隷制度にまで遡る。アメリカ史上最初のアフリカ人が、植民地労働力としてヴァージニアに「輸入」された。一隻のオランダ船に20人のアフリカ黒人を乗せ、陸揚げして売り渡した。それ以降黒人差別、人種隔離等の問題が続いた。そして1963年のキング牧師による演説、翌年の公民権法の制定などにより徐々に黒人社会に明るい兆しが見えるようになってきた。

【第2章】

アメリカには2つのベースボールがあり、白人がプレーするメジャー・リーグと人種隔離により結成した黒人がプレーするニグロ・リーグが存在した。その2つのリーグの体制は1900年頃から半世紀近く続き、1947年に黒人初のメジャー・リーガー、ジャッキー・ロビンソンがメジャーデビューすることにより、ニグロ・リーグの存在が失われ、さらに次々と黒人選手がメジャーデビューを果たすことになる。

【第3章】

ジャッキー・ロビンソンは黒人初のメジャー・リーガーとして1947年にメジャー・デビューすることになった。その輝かしい功績の裏側には黒人に対する野次罵倒、相手選手からの故意スパイクなど酷い仕打ちが待っていた。しかし、ブランチ・リッキーの助言やチームメイトの協力、そして何より辛抱強く耐えたジャッキーの努力の証が今現在の彼の輝かしい功績として語り継がれている。

そして彼のデビューにより、様々な黒人選手がメジャー入りを果たし、彼らもまた現在でも語り継がれる記録を残した。

【まとめ】

野球における黒人差別とりわけメジャー・リーグに関してはこの半世紀の間で大きく進歩したであろう。これは1947年にジャッキー・ロビンソンがメジャー・デビューしたことも大きな要因となっているだろう。冒頭で述べたようにアメリカの大学野球に黒人がみられなかったのは、おそらく貧富の差がまだまだ残っていて黒人社会がまだまだ成長途中だということを表しているけれども、奴隷だった頃に比べれば黒人社会は大きく変化した。ジャッキー・ロビンソンの功績を研究するにあたって、差別があつた過去は変えられないが、差別のない未来を作り上げることはできる。過去を学び未来を作る。それが今後、同じことを繰り返さないためのキーワードであるだろう。